

(当テキストは決算説明会における説明を元に投資家の皆様の利便性を考慮して、要約としてまとめたものです。当日の説明を一言一句書きとめたものではありません。ご了承ください。)

## P2「2012年3月期 第2四半期累計決算 <概略>」

- ・ 第2四半期累計営業利益は、残念ながら17億円の赤字となりました。純利益においても73億円の赤字となりました。  
要因は、構造改革費用、震災影響に伴う費用の増加、円高、これらが複合的に重なったことによります。これらの一時費用を除きますと、事業は想定通り進捗しています。  
第1四半期決算時に、お話ししたバックオーダーの解消も進んでいます。
- ・ 売上高は、カラーMFPが順調に推移しましたが、モノクロ MFP の販売減などもあり、現地通貨ベースでは、前年同期比ではほぼ横這いとなりました。
- ・ 新興国市場での拡販、MDS(マネージド・ドキュメント・サービス)・ITサービス事業、新規ビジネスも順調に展開しております。また構造改革も予定通り進捗しており、中計で掲げた施策は予定通り進めています。
- ・ 2012年3月期に関しては、日本国内では震災の復興需要を見込んでおります。一方、欧米については経済の不透明感も考慮し、売上高見通しを若干下方修正いたしました。しかし、緩やかな拡大は続くだろうと見ております。
- ・ 下期の為替前提をドルは75円、ユーロは105円へ変更いたしました。
- ・ 上期は特殊要因を除くとほぼ想定通りに進捗しており、構造改革を進めることで下期業績は改善、通期ではある程度の利益を確保できる見通しです。これに伴い、中間配当は予定通りとさせていただきます。

## P3「【参考】17次中計主要戦略の進捗状況」

### 「プロダクションプリンティング事業基盤の確立」

ー2011年6月に投入した新製品 Pro C751/651 が好評であり、これを軸に拡大してまいります。

### 「新興国市場での事業成長の実現」

ーA4のMFPを5機種、A4のLPを7機種、中国での開発機種も含め投入いたしました。

ーベトナムに販売子会社を設立いたしました。

### 「新規事業の拡大」

ーユニファイドコミュニケーションシステム(UCS)は、LED照明などは、好評を得ています。

#### 「販売体制の強化」

特にアジアパシフィック地域で体制を拡大しています。

－オーストラリアで2011年4月「Print Solutions Group」を買収しました。

－インドで2011年5月「Momentum Infocare 社」を買収しました。

#### 「CRGP 推進による体質改造」

－日本国内で希望退職者を募集いたしました。

### P4 「2012年3月期 第2四半期累計 業績」

- ・ 2011年度上期は、前回見通しを若干下回りました。売上高は、前年比3.3%減、為替影響を除くと0.2%減とほぼ前年同期比横ばいとなりました。
- ・ 営業利益では、残念ながら17億円の赤字となりました。但し、構造改革費用、震災影響費用等を除きますと334億円の黒字、営業利益率では3.6%となり、前年度の中間期とほぼ同水準と言えます。さらに、為替影響による利益減少分64億円を考慮した場合、営業利益で約400億円となり、実質的には昨年度よりも若干改善しているといえます。

### P5 「【参考】2012年3月期 第2四半期累計 分野別売上高」

- ・ 日本は、2011年3月期の第4四半期に震災影響で大きく減少しましたが、今年度の第1、第2四半期で回復基調にあります。
- ・ 米州は為替を除いても若干前年を下回りました。想定より需要が弱いと感じております。バックオーダーの解消は順調に進んでおります。
- ・ 欧州は、第2四半期にかけて回復してきております。
- ・ その他地域は、まだ規模は小さいですが、順調に伸びております。

### P6 「2012年3月期 第2四半期累計 営業利益：前年同期比増減分析」

- ・ 上期の営業利益は昨年度の380億円に対し、今回マイナス17億円となりました。
- ・ 前回見通し比では、77億円未達となりましたが、構造改革費用が37億円、震災影響が32億円増えたことが主な要因です。
- ・ 「販売増」によって98億円利益増となりました。
- ・ 「製品原価低減」で17億円利益増となりました。
- ・ 「研究開発費」は、下期の新製品、新規事業の開発費用などで55億円の利益減となりました。

- ・ 「その他経費」は、第1四半期は50億円、上期は42億円なので、第2四半期は経費を減らしました。
- ・ 「為替影響ネット」は、マイナス64億円の減益要因となりました。これは総利益の影響で182億円の利益減、経費の減少で118億円の利益増のネットになります。
- ・ ここまでの構造改革費用、震災影響を除くベースでは、営業利益は334億円となります。
- ・ 「構造改革費用ネット」の239億円は、効果の方はまたゼロでございますので、費用＝ネットになります。計画より37億円増加しております。
- ・ 「震災影響」では112億円の利益減となりました。バックオーダー解消のための空輸コストも含まれます。

#### **P7 「【参考】2012年3月期業績 補足：四半期推移」**

- ・ 四半期別に営業利益を見ますと、構造改革費用、震災影響を除くと第1四半期の営業利益は150億円、第2四半期では184億円出ていたこととなります
- ・ 販管費率においても、構造改革費用除くと第2四半期は36.8%となり、これを今後更に引き下げていきたいと考えております。

#### **P8 「2012年3月期 第2四半期累計 連結セグメント情報：事業別(1)画像&ソリューション分野」**

- ・ 画像&ソリューション分野では、売上高は前年比2.6%減、為替を除くと同0.9%増となりました。
- ・ 営業利益に関しては、構造改革費用を除くと上期では573億円となります。同じく第2四半期については305億円、さらに震災影響も除いた場合367億円となり、実質ベースでは改善できていると考えております。

#### **P9 「【参考】画像&ソリューション分野 補足：四半期推移」**

- ・ 昨年の第2四半期にハードが大きく伸びたことが、今回のノンハードの伸びを押し上げています。

#### **P10 「2012年3月期 第2四半期累計 連結セグメント情報：事業別(2)産業分野」**

- ・ 産業分野は、営業利益でマイナス21億円となりました。構造改革費用除いても残念ながらマイナス7億円となります。下期は、構造改革の効果も取り込み、黒字にできると考えております。

**P11 「2012年3月期 第2四半期累計 連結セグメント情報:事業別(3)その他分野」**

- ・ その他分野は、営業利益でマイナス28億円となりました。新規事業での先行的な費用がかかっており、これを除くとマイナス8億円となります。下期は黒字化を狙います。

**P12 「2012年3月期 第2四半期累計 連結セグメント情報:所在地別(1)日本、米州」**

- ・ 日本は残念ながら、上期、営業利益でマイナス156億円となりました。しかし、構造改革費用を除くと、プラス83億円となります。
- ・ 米州は、上期では59億円の赤字となりましたが、下期は黒字化してまいります。売上高が為替を除いても減収となっており、この改善に向け手を打っております。

**P13 「2012年3月期 第2四半期累計 連結セグメント情報:所在地別(2)欧州、その他」**

- ・ 欧州は、為替影響を差し引くと売上は改善しております。手を緩めずに、営業利益率10%を目指して引き続き収益の改善を進めていきます。
- ・ その他地域は、為替影響を差し引くと伸びてはおりますが、まだまだ伸びる余地があると考えております。

**P14 「連結貸借対照表 < 2011年9月末 >」**

- ・ 754億円の総資産の圧縮となりました。
- ・ 棚卸資産は、バックオーダー解消のための作りこみ、下期の新製品の生産・調達等により一時的に増加しております。

**P15 「【参考】連結貸借対照表: 主要指標推移」**

- ・ 棚卸資産回転期間がバックオーダー解消、下期の新製品のための作りこみにより、2.05と、昨年9月比で0.1ポイント悪化しております。年度末に向けて改善を進めます。

**P16 「連結キャッシュフロー計算書 < 6ヶ月分 >」**

- ・ 利益の減少と、在庫の増加などにより、フリーキャッシュフローは、残念ながら400億円超のマイナスとなりました。構造改革費用を除くと、第2四半期では収入に転じており、下期は更にキャッシュを創出できると考えております。

#### P18 「2012年3月期 通期 業績見通し <修正>」

- ・ 通期の売上高を1兆9,500億円と、600億円下方修正いたしました。
- ・ 営業利益についても370億円に下方修正いたしました。  
この営業利益の背景について、次のチャートで説明いたします。

#### P19 「2012年3月期 通期 営業利益見通し：前年度比増減分析」

- ・ 「販売増」による利益増は320億円と、前回よりも120億円引き下げました。
- ・ 「製品原価低減」による利益増は50億円と、前回見通しから変更しておりません。
- ・ 「研究開発費」は、新製品と新規事業展開のため、昨年よりも若干増やしております。但し、前回見通し比では、92億円から42億円へと50億円、費用を圧縮しております。
- ・ 「その他経費」は前回の90億円から80億円と、10億円圧縮しております。
- ・ 「為替影響」は、下期についてドル75円、ユーロ105円の前提とし、前回見通しよりも70億円マイナスの140億円の利益減といたしました。
- ・ 「構造改革費用ネット」は、通期で200億円の利益減を見込んでおります。上期に費用先行で239億円をかけました。下期には更に71億円支出する見通しです。一方、効果は、通期で110億円となる見通しです。つまり、通期で見ますと、費用が310億円、効果が110億円となり、ネットでは前回のアナウンス同様、200億円の利益減を見込んでおります。
- ・ 「震災影響」では前回見通しから40億円増加し、140億円の利益減を見込んでいます。
- ・ 通期で、「構造改革費用ネット」200億円、「震災影響」140億円を除きますと、営業利益は710億円となります。

#### P20 「2012年3月期 通期 分野別売上高見通し」

(製品別)

- ・ 画像&ソリューション分野で現地通貨ベースで約4.4%増収。その他分野は、ペンタックス連結の影響などにより、10.8%の増収を見込んでいます。

(地域別)

- ・ 日本では、復興需要も含めて3.3%増収を見込んでいます。

#### P21 「連結財務指標推移 (年度別)」

- ・ 上期の赤字は、戦略的な一時費用によるもの、また戦略を前倒したために発生したコストによるものであり、年間配当33円を維持する見通しです。

以 上